



# 和光の緑と湧き水だより 会報 Verda180号

NPO 法人 和光・緑と湧き水の会 会報発行 2017年8月号 代表理事 高橋絹世 (462-9912)

身近な自然を知って守り伝えよう <http://wako-wakimizu.org/>

	全体会	新倉ふれあいの森	白子・大坂ふれあいの森(地域の会と協力して)	樹林公園
2017年8月	2日(水) 新任教員研修会 3日(木) 自然環境マップ報告会	19日(土) 定期保全	7月28日 モニ1000調査と保全 2日の研修会準備	18日ボランティア体験、ヒロハアマナ保護区保全
9月	2日白子湧き水生き物観察会 26日(火) お茶の水女子大地理学巡検	(運動会が第3土曜に予定されているため変更予定)	20日(水) 大坂保全	8月19日ボランティア体験

## 1. 小学校内での観察会 2017年6月30日 高橋勝緒(市民新報記事より)

小学5年生は夏のはじめに林間学校がある。和光市立第四小学校では、例年、浅間山系の湯ノ丸山や池の平でハイキングなどの体験をする。そんなとき、自然とふれあう方法、歩く先々の自然にどんな見方ができるのだろうか。6月末の午後の一時、校庭での「自然観察」の授業を「学校応援団」として行っている。



「自然観察」というと、図鑑を手に名前を調べて学ぶなどの手法もある。でも、ここでは、自然の中に、「おどろきを見つけよう」、「ふしぎを探そう」、「そして考えよう」をテーマに掲げている。

校庭は普段子供たちが見慣れたフィールドである。そんなところで「おどろき」や「ふしぎ」があるのだろうか。当会のスタッフ4人と先生方の下、約80人の生徒たちが校庭に散る。ヒマラヤスギの高木がある。今年は、緑色の松ボックリがたくさん見える。取りたくなるが届かない。生徒の一人を何人かで担ぎ上げて手が届いた。独特の臭いと、ベタベタな樹脂の感触にみんな「びっくり」。アオスジアゲハがクスノキの葉に産み落とした小さな白い卵にも興味津々。虫食いだらけのキャベツも立派な教材。スタッフよりも昆虫に詳しく虫を探すのに長けた生徒も居る。自由に動き回る子供たちや先生方と、共に歓声を上げて、一人一人の異なる「発見」に「自然の豊かさ」、「自然の多様さ」を体験してもらった。

おわりに、浅間山系の特徴、校庭に花が少ない季節に美しい高山植物に出会うであろうこと、地蔵峠が日本列島の中央分水嶺であることなど、素晴らしい自然に触れる林間学校となるよう楽しんだ。

## 2. コープみらいプラザまつり IN 富士見 7月23日

コープみらいでは7月23日にコープの魅力発見「プラザまつり IN 富士見」を開催し、湧き水の会も参加し、「ムクロジのプレスレットづくりと会の活動紹介パネル展示」を行いました。プラザ富士見はみずほ台駅前であり、3階までを会場に気軽に楽しく参加できるイベントが企画されていました。当日は富士見市長もお出でになり、和光の湧き水や自然を紹介し、自然環境マップと冊子を差し上げました。富士見にも湧水があり、市民活動での保全が今後の課題とのことでした。



当日は富士見市長もお出でになり、和光の湧き水や自然を紹介し、自然環境マップと冊子を差し上げました。富士見にも湧水があり、市民活動での保全が今後の課題とのことでした。

### 3. 和光湧き水観察教室 中央公民館主催 7月24日

当会が市内の湧き水を案内し、和光市の歴史や湧き水の文化についてお話をし、参加者皆さんと仲良く歩こう、という企画です。コースは、公民館—ニホニウム通り—馬頭観音—大坂ふれあいの森—富沢湧水—帰館（湧き水の講義）今回は、夏休みボランティア体験の中学生2名も参加。ボランティアとしては、観察会参加者のサポートや、進行中の臨機応変な手伝いをしてもらいました。また参加することで、和光の自然を知ってもらいました。まずは、最も新しい通り「ニホニウム通り」での観察と元素のお話、その後に江戸時代から使われないにしえの川越街道を歩き、馬頭観音。その先は急な下り坂にある大坂ふれあいの森、最後に富沢湧水。大きなヘビトンボ、かわいいサワガニが見つかりました。参加者は少なかったのですが、皆とても熱心に観察し、生き物の写真を撮ったり、湧き水の湧く地層のお話を聞いて粘土に触ったりしていました。夏休みの宿題にもおおいに役立つ教室でした。アンケートでも、普段通るだけでは全く気が付かなかった歴史や自然を感じる数々の発見があり、皆さんの愛情を感じる地に大変愛着がわきました、という感想をいただきました。身近な自然に親しんでいただけたようでした。



ニホニウム通りでの新元素発見のお話



きれいな湧き水の流れにある石にヘビトンボ発見

### 4. 湧き水の会のホームページに、「和光市自然環境マップ」がアップされました

マップづくりでは、小向雅子さんがイラストレーターでデータ作成しましたが、当会のホームページも担当しています。ホームページに今回出来上がったマップを載せてもらいました。皆様ぜひ会のホームページを開いてマップを見てください。今後は多方面で和光の自然環境マップが利用されることになると思います。どうぞよろしく。

### 5. 新倉ふれあいの森、大坂ふれあいの森の活動情報

7月の七夕祭りでは、和光市内の児童館、福祉施設などで新倉産の竹が利活用されています。7月初旬には、暑いさなかではありますが、毎年竹を切り出して、公共施設に提供しています。自然の素材での七夕飾りに一役買っています。また新倉では、道路沿いの木が大きくなり、バスの通行に影響しないように、保全活動を行っています。

大坂ふれあいの森では、水辺の樹木の生長が早く、水辺が暗くなってしないしますので、枝落としをして明るくしました。丁度大きなオニヤンマが水辺に来て、産卵する姿を見ることが出来ました。貴重な瞬間でした。

### 6. ニホニウム通りの整備費として、湧き水の会から1万円寄付しました

いにしえの川越街道を通り、外環道に曲がると「ビスマス83番」のプレートがあります。観察会でも、江戸時代のお話に加えて、新元素発見のお話も当会では伝えています。和光市で寄付金を募集中のため、「竹募金」と会員有志の寄付と合わせて1万円を寄付しました。和光市駅からは、元素番号のプレートがかなりたくさんつながってきています。和光の新発見のコースとしても適していると思います。皆様よろしくご了承ください。